

課題	松枯れ病予防活性剤散布試験 (マツエース)	開発場所	酒田森林管理センター	開発期間	自平成8年度 至平成10年度	局担当	
----	--------------------------	------	------------	------	-------------------	-----	--

開 発 結 果

1. 開発経過

平成8年5月29日付け事務連絡文書により署自主課題として活性剤散布区域及び対象区を設定した。

年度	項目	備考
平成8年度	試験区域設定 予防剤散布	設定時毎木調査
平成9年度	予防剤散布 枯損調査(秋)	
平成10年度	予防剤散布 枯損調査(秋) 調査結果集計	

2. 実施内容及び調査内容

調査項目	調査年月日	調査内容・結果
設定時毎木調査	平成8年5月20日	区域内毎木調査 散布区 84本 平均直径23cm 平均樹高15m 対象区 81本 平均直径24cm 平均樹高15m
調査区域設定	平成8年5月20日	調査区・対象区とも0.1ha(100m×10m)
初回散布	平成8年6月4日	
2回目散布	平成9年6月26日~27日	
平成9年度枯損調査	平成9年11月4日	区域内毎木調査 散布区 84本 平均直径24cm 平均樹高15m 枯損木1本 対象区 81本 平均直径24cm 平均樹高15m 枯損木1本
3回目散布	平成10年5月27日	
平成10年度枯損調査	平成10年10月23日	区域内毎木調査 散布区 84本 平均直径25cm 平均樹高15m 枯損木1本 対象区 81本 平均直径25cm 平均樹高15m 枯損木1本

3. 結 論

1) 松枯れ病に対する影響

試験区の毎木には根元を円形状に浅掘し、活性剤指定の散布量に基づいて薬剤を3回(3年)散布した結果、松枯れ病の発生は見られなかった。一方対象区は、下草等を刈払いしたものの松枯れ病発生は見られなかった。

2) 松の成長に対する影響

薬剤散布区・対象区ともに肥大成長は差がなく、樹高・色等も周囲と変化ない。

3) 総合的な影響および結論

上記項目別の結果を踏まえ総合的に判断すると、松枯れ病に対する活性剤の効果判断できる結果は得られなかった。なお、調査区域内の「枯損木」は、倒木によるもので松枯れ病によるものではない。